

# 教えて『ハチ博士』

ハチとうまく付き合うために



八王子市環境部環境保全課

# はじめに

ハチというと、皆さんはすぐに人を刺し、命さえ奪う恐ろしい害虫だと思われるかもしれませんが。確かに毎年多くの方がスズメバチの被害に遭い、全国では年間約 30 名の方がその尊い命を落としているのも事実です。しかし、付き合い方を知れば恐れる昆虫ではありません。



八王子市には、このハチのことを知り尽くしている人がいます。お名前は大槻忠男さん（犬目町在住）、人呼んで『ハチ博士』。25 年間、市役所でハチの駆除に携わってきました。そこで、大槻さんからハチのことを伺いながら、皆さんと共にハチと上手に付き合い方を学んでいくことにします。ハチも私たち八王子市民と同じこの緑豊かな自然の中で共に暮らす仲間なのですから・・・。

では早速、大槻さんの“講義”をのぞいてみましょう。



大槻忠男さん

## 正しい知識でハチとうまく付き合いたい

ハチは、皆さんが思われているような恐ろしい生き物ではありません。ハチが人を刺すのは、ハチ自身や巣が危険にさらされていると感じた時だけ。上手に付き合えば刺されることはないのです。むしろ、人に対して利益をもたらす益虫です。驚くかもしれませんが、事実なのです。

例えば、皆さんが一番恐れているスズメバチ、アシナガバチ——彼らは、ハチの幼虫のためにケムシやアオムシといった野菜や木の葉などを食い荒らす害虫を捕獲し、大量発生を防ぎます。また、ご存じのとおりミツバチは花粉を運び植物が実を結ぶために一役買っています。

ハチは、その生態や習性をよく理解すれば恐れる生き物ではありません。大切な生き物の 1 つです。ただ、あなどってははいけません。わたしも長年ハチにかかわってきましたが付き合い方を間違えて刺されたこともあります。正しい知識をもってハチとうまく付き合っていきたいですね。

# 目次

<b>Lesson1 ハチを知ろう～種類と生態</b>	・・・3
スズメバチ	・・・3
・キイロスズメバチ	・・・3
・コガタスズメバチ	・・・5
アシナガバチ	・・・7
ミツバチ	・・・8
<b>Lesson2 ハチは刺さない???</b>	・・・9
巣に近づくと警告	・・・9
巣に刺激を与えた時は・・・	・・・10
<b>Lesson3 刺されないための注意は</b>	・・・11
色によっては激しく攻撃	・・・11
ハチはにおいに敏感	・・・12
秋口は特に注意	・・・12
◇遠足にはスプレー缶を必携◇	・・・13
<b>Lesson4 万一刺されてしまったら</b>	・・・14
<b>Lesson5 『危険』な場所は速やかに駆除</b>	・・・15
時期と種類で違う駆除の仕方	・・・15
駆除する際の注意事項	・・・16
市役所では	・・・16
代わりに	・・・17

# Lesson 1 ハチを知ろう

## ～種類と生態

日本には、さまざまな種類のハチが生息しています。攻撃性が高いハチ、おとなしいハチなど生態もさまざま。日常生活でハチに出会っても適切な対処をするためには、まずどのようなハチがいてどのような習性をもつのかを知っておく必要があります。ここでは、八王子でよく見られるハチを紹介します。

### スズメバチ

#### ● キイロスズメバチ



▲キイロスズメバチ（撮影：小野正人）

#### 巣の形：

まだら模様のついた丸型。テニスボールくらいの大きさから、バスケットボールを超える大きさまで発達し、時に直径が1メートルを超えることもある。巣の材料は樹皮や枯木であり、かみ碎いて薄くのばし張り付ける。材料の違いによってまだら模様になる。

#### 特徴：

体はスズメバチの中では比較的小型であるが、攻撃性は非常に高い。働きバチの体長は2.5センチ前後で、女王バチは3センチ前後に達する。働きバチの活動性は非常に高く、1匹あたりの寿命は2週間程度と短い。



▲キイロスズメバチの巣。この中で300～500匹の働きバチが生活

## 巣をつくりやすい場所：

樹木の枝、樹木・地面の空洞、屋根裏、軒下、床下など。

風雨を防げるところであれば、あらゆるところに巣をつくる。

巣をつくった場所が手狭になると引越しをすることもある。

## エサ：

街路樹や植木などにつくアオムシやケムシのほか、アブやハエ、小型のハチなど、様々な昆虫を幼虫のエサとするために捕獲する。

成虫は幼虫の出すだ液を主な栄養源としており、花蜜や樹液、ジュースの残りなども摂取する。



▲キイロスズメバチの巣の引越し

(撮影：小野正人)



▲1日に数十キロも飛ぶと考えられている

キイロスズメバチ (撮影：小野正人)



## “もっと”教えて「ハチ博士」その1

ハチは、ゴールデンウィーク前後から9～11月下旬まで活動します。4～5月にかけて女王バチは冬眠から覚めて子育てを開始し、働きバチが増えるにつれて巣も大きくなります。8、9月になると巣はもっとも大きくなり、新女王バチを育てるための準備を開始します。

市役所へのハチの相談件数もゴールデンウィークあたりから始まり、11月上旬ぐらいに一段落。中でも8～9月がピークで、一年の相談件数のうち6割がこの時期に集中します。

ハチの季節はいつ？

## ● コガタスズメバチ



▲コガタスズメバチ（撮影：小野正人）

### 特徴：

体はずんぐりとしていて、攻撃性は比較的低い。

働きバチの体長は3センチ前後で、女王バチは3.5センチ前後に達する。

働きバチの活動性は低く、1匹あたりの寿命は約3週間と比較的長い。

### 巣の形：

初期の巣はとっくりをひっくり返した形で非常に特徴的である。その後、まだら模様をついたラグビーボールのような形へ成長する。

巣の材料は、キイロスズメバチと同様に樹皮や枯木。

巣はキイロスズメバチほど大きくなり、成長した巣内の働きバチの数も200～300匹とキイロスズメバチに比べ少ない。



▲コガタスズメバチの巣。この中で200～300匹の働きバチが生活（撮影：小野正人）

### 巣をつくりやすい場所：

樹木の枝、ベランダの下など開放空間を好む。

キイロスズメバチのような巣の引越しをすることはない。

## エサ：

街路樹や植木などにつくアオムシやケムシの他、アブやハエ、小型のハチなど様々な昆虫を幼虫のエサとするために捕獲する。

成虫は幼虫の出すだ液を主な栄養源としており、花蜜や樹液、ジュースの残りなども摂取する。



▲コガタスズメバチの初期の巣。ここまでは女王バチ1匹のみで巣作りを行う  
(撮影：大槻忠男)



## “もっと”教えて「ハチ博士」その2

▲大きな巣でも入り口は1つ

①～③までは、女王バチ1匹のみで巣作りをします。子育てに専念している女王バチは人を刺すことはほとんどありません。初めは茶碗を伏せたような形(①)で、その後とっくりを逆さにした形(③)になります。働きバチが羽化した後は、とっくりの先を削り(④)、丸い形に変形し(⑤)、その後大きくなっていきます。

①～③までは約10日間、①～⑤までは約2か月間で出来る上がるのですから驚きです。



(撮影：大槻忠男)



コガタスズメバチの巣が大きくなるまでの過程はとても特徴的で、一目でコガタスズメバチだと分ります。

コガタスズメバチの巣が大きくなるまで

# アシナガバチ



▲アシナガバチの中では大型のキアシナガバチ  
(撮影：小野正人)

## 巣の形：

茶碗をひっくり返した形で、下からみると幼虫が育つ六角形の部屋「育房」を見ることができる。

スズメバチのような外被はつからない。巣の材料は、スズメバチと同様に樹皮や枯木。

## エサ：

街路樹や植木などにつくアオムシやケムシなどの昆虫を幼虫のエサとするために捕獲する。

成虫は幼虫の出すだ液を主な栄養源としており、花蜜や樹液、ジュースの残りなども摂取する。

## 特徴：

キアシナガバチ、セグロアシナガバチ、コアシナガバチなど数種が知られており、いずれも体は細長く、足が長いのが共通した特徴。

スズメバチに比べると性格はおとなしいが、巣やハチ自身に刺激を与えると刺される危険があり、人の生活に身近なところに巣をつくるので注意が必要。

大型種では、働きバチの体長は2センチ前後で、女王バチは約3センチ前後。

## 巣をつくりやすい場所：

生け垣や植込みの中、樹木の枝、軒下などを好む。



▲キアシナガバチの巣。六角形の育房をみることができる

# ミツバチ



▲セイヨウミツバチ（撮影：小野正人）

## 特徴：

外来種のセイヨウミツバチと、在来種のニホンミツバチが知られている。

体は全体的に丸く、体毛がある。

性格は非常におとなしい。働きバチの体長は1センチ前後で、女王バチはその約1.5倍。

## 巣をつくりやすい場所：

樹木の空洞、屋根裏、床下などの閉鎖された場所を好む。

## 巣の形：

その場所にあった形の巣をつくり、特に決まった形はない。複数の巣板が垂直に垂れ下がる。巣の材料は他のハチとは違い、ミツバチの腹部から分泌される「ろう」。

## エサ：

花蜜、花粉などを幼虫のために摂取する。昆虫などを捕獲することはない。



▲ミツバチの巣（撮影：小野正人）



## “もっと”教えて「ハチ博士」その3



▲何千匹ものミツバチが集まることも

5〜6月にかけて、ミツバチが何千匹という大群になって街路樹や庭木などに集まることがあります。これは分封（ぶんぽう）といって女王バチが働きバチを連れて新しい巣をつくるために移動している最中です。驚いてしまうかもしれませんが、非常におとなしく危害を加えない限り襲われることはありません。2、3日でない場合が多いので、見つけた場合はそっとしておいてあげましょう。

ミツバチの大群が：

## Lesson2 ハチは刺さない??



ハチといえば、すぐ人を刺し命まで奪う恐ろしい害虫と思われがちですよね。しかし、非常に種類の多いハチのうち人を刺して問題になるのはごく一部。

例えば、シガバチ、ドロバチなどは手で押さえつけない限り、まず刺すことはありません。これらのハチにとって、その毒は幼虫のエサとなるアオムシなどを動けなくさせて捕獲するために使う麻酔薬のようなもので、攻撃用として使うものではありません。

あのスズメバチでさえも、なにも刺激を与えなければ刺してくることはないのですよ。彼らは防衛本能が非常に高く、外敵から巣を守るために相手を威嚇し、時に刺す行動に出るのです。

彼らの習性をよく理解し、危険を回避しましょう。

### 巣に近づくと警告

巣に人や動物などが必要以上に接近しようとするするとハチは警告活動をとります。巣の出入り口付近では常に見張り役が警戒にあたっていて、近づこうとすればすぐ飛び出してきました。そして、スズメバチの場合は羽音を立てながらまとわりつくように飛び回り、大あごをかみ合わせながらカチカチという音を立て威嚇行動を取ります。これは、「これ以上近づいたら攻撃する」という警告です。



## 巣に刺激を与えた時は・・・

巣やハチ自体へ刺激を与えた場合、刺される危険性が非常に増します。ハチにとって刺激を受けるといのは、巣を揺すられたり、石を投げつけられ壊されたりといった直接刺激を受ける場合だけではありません。

巣に気付かずに何気なく庭木の手入れや茂みに分け入った場合にも、ハチは刺激を受けたと感じ攻撃してくる危険性があります。

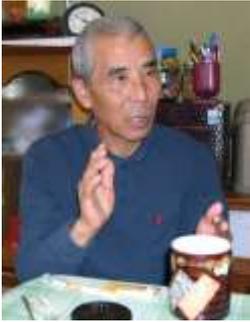
ハチは刺激を受けると、興奮状態となり一斉に攻撃を仕掛けてきます。このようになってしまうと、もはや逃げるしか方法はありません。なお、一度興奮状態となったハチは巣へ近寄るものがいれば警告をせず即、攻撃をしてきます。

ハチのシーズンである8～9月に、庭木を手入れしたり茂みに分け入ったりする際は要注意。周囲にハチの巣がないかをよく確認してから行ってください。少し注意をするだけで危険を回避することができます。



## Lesson 3

# 刺されないための注意は



ハチに刺されないようにするためには巣に刺激を与えないことが一番ですが、ハチが反応を示す色、におい、ハチの攻撃性が増す時期をよく理解すれば刺される危険性をより減らすことができます。ハイキングやキャンプなど自然が多い場所へ行く際は、これから挙げる点をよく理解して実践してくださいね。

## 色によっては激しく攻撃

ハチは瞳や髪の毛など黒くて動くものに強い反応を示し狙ってきます。黒色に対してなぜ激しい攻撃性を示すかは諸説ありますが、ハチの巣内の幼虫やさなぎを狙う熊や人から巣を守るために、熊の鼻、人の黒い瞳や頭部などといった弱点を効果的に狙うことができるよう適応していったのではないかと、という説が有力です。

このように、黒色に対して強い反応を示すハチから身を守るために、庭木の手入れやハイキングなど屋外で活動をする時には、黒い服を避け白い服を着用し帽子をかぶりましょう。



## ハチはにおいに敏感

香水や化粧品、整髪料などのにおいに対してもハチは敏感で寄ってくる習性があります。また、山へハイキングに行った際には、リュックサックの中に入っているお弁当のにおいでさえも認識するほど。

ハチが寄ってきて自分の回りを飛び回るとびっくりして手で振り払おうとしてしまいがちですが、それは絶対に避けてください。振り払った手がハチに触れてしまうと、ハチは攻撃を受けたと思い反撃に出て刺されてしまいます。

ハチが寄ってきてもしばらくするといなくなりますので、じっとしてゆっくりと後ずさりして逃げましょう。また、リュックサックの中のお弁当のにおい漏れを防ぐなど対策を。

## 秋口は特に注意

秋口になると、女王バチは来年女王バチになるたくさんの新女王バチやオスバチといった生殖能力をもつハチを育てはじめます。働きバチはこれらのハチを守るために警戒心が非常に強くなり、巣に近づくだけでも攻撃を仕掛けてくるようになるため、非常に危険です。

この季節になると働きバチの数はもっとも多くなり、刺される被害も非常に増えます。巣を見つけても、いたずらをせずそっとしておきましょう。



## ◇遠足にはスプレー缶を必携◇



▲スプレー缶の他にも専用毒抜き器も携帯を

秋は、子どもたちの遠足シーズン。待ちに待った遠足をハチに刺され台無しにはしたくないものです。

遠足に来て開放的になった子どもたちは、ハチの巣を見つけるといたずらをしてしまうこともあります。樹木に設置された鳥の巣箱にハチが巣を作っているのを発見し、面白がって木を揺すったり石を投げたりして巣を刺激し、興奮したハチの群れが子どもたちを刺してしまう——

こんなことにもなりかねません。

まずは黒い服を避け帽子をかぶる。そして、ハチの巣を見つけてもいたずらをしなくて静かに立ち去るようにしてください。いたずらをしなければハチが襲ってくることはまずありません。

引率の先生や保護者は市販のスプレー式殺虫剤を必ず携帯し、ハチに襲われた時はそれで撃退。万一刺されてしまった時はすぐ手当てをしてください。なお、ハチ専用毒抜き器がアウトドア・ショップなどで簡単に手に入りますので、万一の時のために携帯しておくとう便利です。効率よく毒を抜くことができます。

子どもたちが参加する遠足は、事故をなくし楽しい遠足にしたいですね。

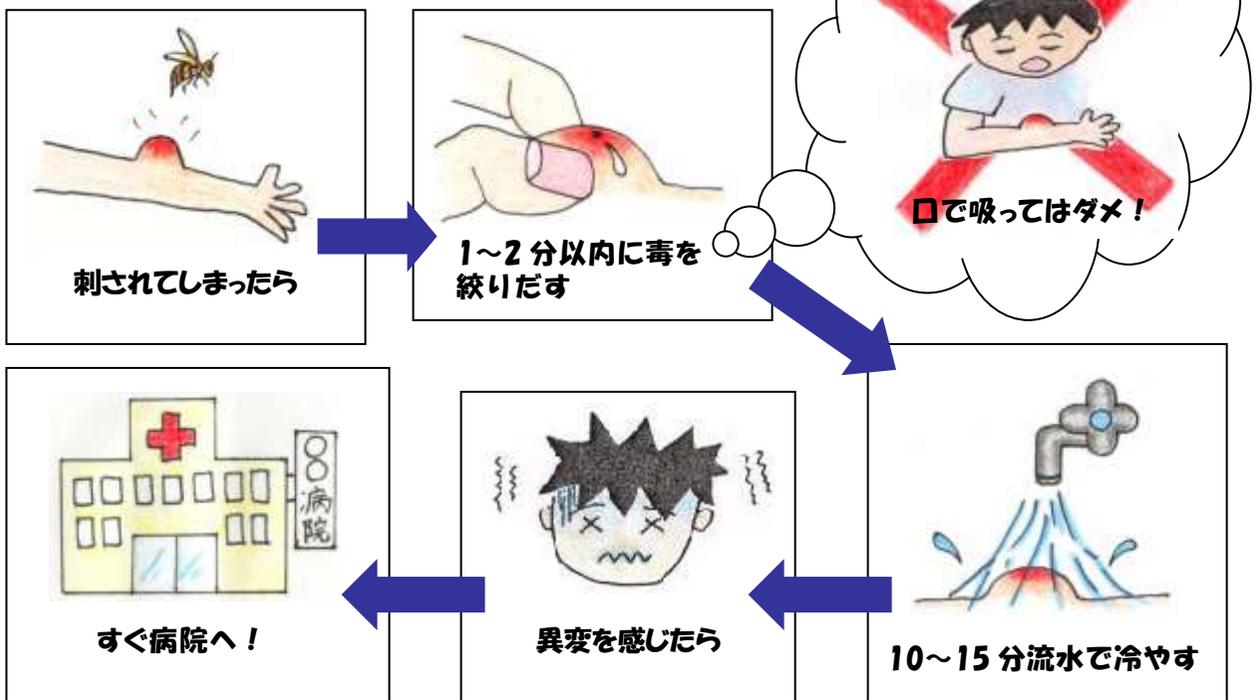


## Lesson 4

# 万一刺されてしまったら

注意していたつもりでも、知らないうちにハチを刺激して刺されてしまうことがあります。そんなときには焦らずに適切に対処しましょう。

### ● 刺された場合の対処



もしハチに刺されてしまったら、すぐ（1～2分以内）に爪や指または専用の毒抜き器でハチの毒を血と一緒に絞り出してください。このとき、口では吸わないようにしてください。虫歯や歯ぐきなどから毒が侵入してしまうことがあります。

そしてしばらく患部を冷たい流水で冷やし（10～15分）、その後、副腎皮質ホルモン入り抗ヒスタミン軟こうを患部に塗り安静にしてください。

その間、じん麻疹や発熱、おう吐、息苦しくなるなどの全身症状がもしあらわれたらすぐに医師の診断を。

なお、過去にハチに刺されてじん麻疹などのアレルギー反応がでたことのある方は、大至急医師の診断を受けてください。

## Lesson 5

# 『危険』な場所は速やかに駆除



スズメバチやアシナガバチは、ケムシやアオムシといった野菜や葉などを食い荒らす害虫を捕獲する益虫です。人が近づかないところに巣をつくった場合にはそっとしておきましょう。

ただし人の近くにスズメバチなどが巣をつくった場合、気付かないうちに刺激を与え攻撃されてしまう恐れがあるため、早期に発見し駆除することをおすすめします。

### 時期と種類で違う駆除の仕方

#### ●初期の巣の場合

##### ・スズメバチ（コガタスズメバチ、キロスズメバチ）

とっくり型、テニスボールくらいの大きさのうち、巣内のハチの数は1～数匹です。ハチの活動が比較のおだやかな夜の涼しいうちに巣の出入り口に市販のスプレー式殺虫剤を10センチくらいに近づけて10～20秒連続で噴射して駆除します。



▲コガタスズメバチの巣

##### ・アシナガバチ

駆除の仕方は基本的にスズメバチと同じですが、巣は茶碗をひっくり返したような形です。巣全体へスプレー式殺虫剤を10～20秒連続で噴射してください。



▲アシナガバチの巣

※なお、駆除する際は念のため白の長袖シャツ、長ズボン、防虫ネットなどを頭からかぶり、ゴム手袋などをして必ず一人では行わないようにしてください。

#### ●大きくなった巣の場合

巣が大きくなるとハチの数が増え駆除する際の危険性が増します。自主駆除をする際には防護服を着用し、自主駆除が困難な際は専門業者への依頼を考える必要があるでしょう。

## 駆除する際の注意事項

駆除する際はこの注意事項を必ず守ってください。自分だけでなく周囲の方も守るための心得です。

- ① 刺されにくい服装や、防護服を着用するなど十分に注意。
- ② 駆除は、比較的気温が低く、ハチの動きの鈍い夜に。
- ③ 1人ではなく、必ず2～3人で。
- ④ 近隣の方や通りすがりの方へ被害が及ばぬよう、周知するなどの対策を。

## 市役所では

市では、現在ご家庭にできたハチの巣の駆除は原則していませんが、ご自身でハチの巣を駆除する場合に、駆除用具（防護服、噴射ノズル、専用殺虫剤のセット）を無料で貸し出しています。また、ご自身で駆除するのが困難な場合のために、専門業者（有料）の紹介もしています。

一定の要件を満たす方につきましては公費で駆除できる場合がありますので、市役所ホームページをご確認ください。

連絡先：八王子市環境部環境保全課

（自然環境・庶務担当）

TEL 042-620-7268（直通）

FAX 042-626-4416



▲防護服を着れば駆除する際も安心

# おわりに

『ハチ博士』大槻さんの“講義”は、いかがでしたでしょうか。ハチの生態や習性を学んでみると、皆さんの抱いていたハチに対するイメージも変わってきたかと思います。八王子は豊かな自然が多く、私たちがとても住みやすいまちであると同時に、生き物にとっても住みやすいまちなのです。たとえハチと「ハチあわせ」したとしても、彼らの習性をよく理解し、適切に対応すれば刺されることはありません。

ハチも大切な生き物の1つ。アオムシやケムシなどを捕獲してくれる、益虫でもあります。ハチがいるからといってむやみに駆除をするというのはいかなるものでしょうか。

ハチの生態や習性をよく知り、上手に付き合うことで、私たちにとっても生き物にとっても住みやすい環境をまもりつづけたいものです。



## 協力・写真提供

●大槻 忠男（おおつき ただお） 八王子市犬目町在住

《プロフィール》

八王子市役所にて 25 年間ハチの駆除・相談業務に携わる。退職後もハチの研究を続け、精力的な活動を続けている。

●小野 正人（おの まさと） 玉川大学教授 農学博士

《プロフィール》

玉川大学教授。農学部生物資源学科で、スズメバチ、アシナガバチ、ミツバチ、マルハナバチをはじめとする社会性ハチ類を対象に研究を展開している。

《主な著書》

「ミツバチのはなし」（共著、技報堂出版）、「生物学を読む」（共著、玉川大学出版部）、「昆虫ウォッチング」（共著、平凡社）、「マルハナバチの世界」（共著、日本植物防疫協会）、など他多数。

## 参考文献

- ・大槻忠男「スズメバチ駆除体験記」（自費出版、1995）
- ・小野正人「スズメバチの科学」（海游舎、1997）

# **教えて「ハチ博士」**

ハチとうまく付き合うために

平成 18 年 8 月 初版

平成 20 年 5 月 第二版

編集発行 八王子市環境部環境保全課

八王子市元本郷町三丁目 24 番 1 号

TEL 042-620-7268 (直通)